

2025 年度 学校自己評価

《目的》

本学院の教育、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、教育水準の向上をめざす。

《評価方法》

- ・学校評価は厚労省が提示する「看護師等養成所自己点検・自己評価指針」を基に作成した評価項目について、学生と教員にアンケート（３段階評価）を行い評価した。
- ・指針によると、「結果は、基準を満たすかどうかではなく、基準を満たしているかを３段階で表示し、◎評価１について改善策を講ずる」とある。

- | |
|---|
| 3 基準を満たしており、特筆すべき取組を行っている
2 概ね基準を満たしている
1 基準を満たしておらず改善が必要 |
|---|

評価項目（厚生労働省 専門学校の自己点検・自己評価項目を抜粋）

①学生…30 項目

②教員…112 項目

大項目 (教員アンケート NO)	アンケート項目数	
	学生	教員
I 教育理念・教育目的 (NO. 1～11)	2	11
II 教育目標 (NO. 12～16)	1	5
III 教育課程経営 (NO. 17～52)	8	31
IV 教授・学習・評価過程 (NO. 53～63)	10	11
V 経営・管理過程 (NO. 64～99)	5	36
VI 入学 (NO. 100～101)	1	2
VII 卒業・就業・進学 (NO. 102～109)	0	8
VIII 地域社会 (NO. 110～116)	3	6

- ・教員の自己研鑽状況は、2025 年度における教員の研修参加状況を調査した。
- ・授業評価は講義・実習の教育方法に関する項目について、学生にアンケート（専任教員用・外部講師用/4 段階評価）を行い評価した。
- ・学修評価として下記の項目の評価を行った。
 - (1) 評価の評定区分の人数と割合
 - (2) 留年・退学者の人数と割合
 - (3) 国家試験の受験者・合格者数と割合

《結果》

1. 学生による学校評価結果

3 学年を合計した「1」の数は、No.20(21)、No.10(21)、No.24(20)の順に多い。()人数。

対策 1) 国家試験に向け、学生自身で目標を設定し実施・評価するよう支援する。(実施中)

2) 実習指導者と教員の役割を明確にし、提示する。(指導者会で周知予定)

2. 授業評価

今年度はアンケート評価をプレテストとして行った。評価項目 10 項目について 4 段階評価を行い、すべての項目の平均が 3.0 以上の結果となった。この結果は、一部の授業の結果であるため参考値にすぎない。次年度は、すべての授業を対象にアンケートによる評価を行う。

3. 学修評価と学生数

減人数とは、入学時人数から留年及び退学により減った人数である。退学の理由の多くは進路変更であり、留年の理由は未修得単位 3 単位以上であった。

A : 80 点以上、B : 70～80 点未満、C : 60～70 点未満、D : 60 点未満

学年 (人)	A	B	C	D	下位 1/4 (点)	減人数※
1 年生 (39)	22 (56.4)	16 (41.0)	1 (2.6)	0 (0)	76.2	3 (7%)
2 年生 (41)	18 (43.9)	19 (46.3)	4 (9.8)	0 (0)	71.6	8 (19%)
3 年生 (33)	12 (36.4)	21 (63.6)	0 (0)	0 (0)	77.1	10 (23%)

4. 教員による学校評価結果

1) 評価 1 の数 2 つ以上の項目は、Ⅲ 教育課程経営、Ⅴ 経営・管理過程に多い。

2) No.40 について、3 年課程（全日制）への変更に伴う授業時間数の増加が負担感の一因と考えられる。

4 期生からカリキュラムのスリム化が図られたので、緩和されることが期待できる。

3) No.93、94 について、学院の将来構想、中・長期計画等を検討していく。

4) No.101 は、学生確保は定員に達するよう継続して入学者選抜方法等を検討していく。

5) No.102、103 は、ディプロマポリシー（卒業認定の方針）に沿って評価方法を明確にしていく。

《今後の課題》

1) 国家試験への学生個々の目標管理

2) 臨地実習指導体制の明確化

3) 将来構想と長・中期目標の提示と各教員の目標設定支援